

令和5年

季刊

秋季号

Vol.87

亞東



第112回 双十国慶節台湾訪問 2023年10月10日



一般社団法人日本台湾親善協会

Japan-Taiwan Friendship Association

一般社団法人日本台湾親善協会の概要

名称 一般社団法人日本台湾親善協会

(英文名) Japan-Taiwan Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七-四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに民主主義と自由を信条と

する日本と台湾との相互理解と交流を促進して

日本と台湾との関係強化と発展に寄与する。

事業

① 日本と台湾との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介

③ 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住する台湾関係者及び在日留学生に対する交流事業

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事業

日本台湾親善協会の変遷

社団法人日本台湾親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年、東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

二〇一二年一月六日、「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、二〇一三年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任、二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

日本と台湾との友好交流を発展させ関係の強化を図り、アジアの繁栄と平和に貢献するため二〇一八年九月に名称を「日本台湾親善協会」に変更しました。会員一同、会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

季刊「亜東」令和五年 秋季号・目次

一般社団法人日本台湾親善協会・概要・変遷 二頁

目次・協会役員名簿 三頁

蔡英文総統 国慶節スピーチ 四頁

日本台湾親善協会二〇二三年台湾訪問団報告 九頁

日本台湾親善協会副会長 並木 正芳

〔令和5年度台湾訪問の旅〕に参加して 十二頁

日本台湾親善協会理事 浅見 哲

事務局だより・新入会員のご紹介 十五頁

令和5年5月17日 現在

役員名簿

名誉会長	玉澤徳一郎								
会長	衛藤征士郎								
副会長	山本順三	張岩田	建国善信	張	碧華				
	並木正芳								
専務理事	赤松 則宏								
業務執行理事	藤山 雅康	笹岡 恭亮							
	榎本 有里								
理事	23名								
	衛藤征士郎	張藤山城	建国康英	張益山	碧華茂	山本伊野	順三雅晴	並木笹岡	正芳恭亮
	赤松則宏	岩田善信	光忠貴哲	榎本加藤	有里光淑	富田由起子	家彰子	明石富田	散人茂之
	森田善正	浅見		柴田	徳光				
	熊沢								
監事	2名		李 八口ル下			鈴木 慶一			
事務局			赤松 則宏			李 孔曉			

一般社団法人 日本台湾親善協会

二〇二三年一〇月一〇日

蔡英文總統 國慶節スピーチ



大會主席游錫堃院長、ナウル共和国大統領、クインロスご夫妻、セントクリストファー・ネイビス知事、セントビンセント・グレナディーン知事、来賓の皆様、そしてアジアスポーツ大会から帰国したばかりの良き友人である台湾の皆様、また、テレビやインターネットで中継をご覧になつている同胞の皆様、こんにちは！

今日は中華民國の一二回目の国慶節である。三年ぶりによくやマスクをはずして、祖国を祝うためにここに集まる事が出来ました。台湾の人々を代表し、世界各地から集まった多くの華僑の方々、そして三年ぶりに再びこの地を訪れてくれた多くの外国の友人たちに心から感謝の意を表したい。防疫に懸命に取り組んだ三年間を振り返ると、そんな日々はもはや遠い昔のことに思えます。しかし、私たちが三〇年間歩んで

きたもうひとつの困難な道がありました。

前進か後退か、努力するか運命に左右されるか。

先月末、「潜水艦国家建設」の最初の標準型が進水した。その後の試験終了後、「海鯤軍艦（シー・シミター）」は二〇二五年に正式に就役する予定である。我が国自前の潜水艦を持つことは、さまざまな政党の歴代大統領が三〇年にわたって実現しようとしてきた夢だ。そして今、私たちはそれを成し遂げた！無から有への一步を踏み出すには、計り知れない勇氣が必要でした。プレッシャーと闘わなければなりません。そしてボトルネックを突破することが必要でした。多くの噂話を抑え、ちよつとした躊躇も失敗につながりかねなかった。

しかし、我々はいかにそれを成し遂げた！私たちの国防の自立するために大きな一步を踏み出し、国軍の戦力はアップグレードされました。私たちは中華民國の台湾を守るという決意を再び示しました。私は、海鯤軍艦が地域の平和と安定を守るために波を打ち破っていることを世界に認められると信じている。これこそが、中華民國が過去七四年間も、不動な立場に立ち続けてきた精神である。特殊な国際情勢と刻々と変化する試練に直面し、前進しなければ後退してしまう、努力しなければ自らの未来と運命をコントロールすることはできない。

困難な課題の中で

改革を実行してくれた台湾の人々に感謝します

特に過去七年ほどの間、国際的・地域的な政治・経済情勢の複雑さと不安定さ、そして一〇〇年に一度のパンデミックや異常気象は、民主主義国における政府のガバナンスの弾力性や、民主主義社会における人々の信頼の基盤に挑戦してきた。私は改革へのコミットメントを忘れたことはないし、改革がもたらす葛藤や痛みもよく知っている。恐怖を団結で克服し、憎しみを寛容で解消し、困難を民主主義で乗り越えてきた台湾の人々に感謝したい。

「婚姻優遇法」の成立から四年が経った。反対派の方々の寛容な姿勢のおかげで、世界中がうらやむ台湾、愛するカップルがみな幸せな家庭を持てる台湾が実現したことに感謝したい。軍・公務員のパートナーの皆さまのご理解に深く感謝申し上げます。年金財政を持続可能なものにするため、これまでできなかった「年金改革」をやり遂げ、次世代を担う政府財政をより良いものにするため、私たちは一丸となって取り組んできました。

また、労働セクターの友人たちの理解にも感謝したい。年金改革のラストマイルはまだ完了していませんが、二〇二〇年以降、労働保険基金の補填に二、六七〇億元の予算を計上しました。安定した財政基盤のもと、地域社会での合理的な対話

による合意形成の中で、労働保険財政改革の次のステージが着実に進められることを期待している。

同時に、基本賃金を八年連続で引き上げ、蓄積された経験をもとに「最低賃金法」草案を提案し、立法院に送付して精査してもらっている。蔡英文は労働力を大切にするという約束を忘れていない。少し前に、桃園から来た「家賃とエスクロー」に携わる公共サービス賃貸人の夫婦に会った。彼らが言うには、社会住宅は単なる貸し部屋ではなく、入居者にとつての「家」なのだそう。台湾のさまざまな場所で、社会住宅の普及に温かく関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。この七年間で、私たちは立ち上げ段階の困難を乗り越え、基礎を築き上げました。今日、社会住宅運動は徐々に汚名を返上し、地域社会で積極的な力を持つようになり、八年間で二〇万戸という目標は二〇二四年末までに達成されるでしょう。

「レジデンシャル・ジャスティス」への道のりはまだ長いですが、ここ数年の経験を積み重ねることで、今後は正しい道への歩みを加速させることができると確信している。

私が総統に就任した当初、台湾の電力予備力率は一・六四％と低かったことを今でも覚えています。しかし、この七年間でエネルギー供給量を飛躍的に増やし、エネルギー転換を押し進め、昨年ついにグリーン電力の総発電量が初めて原子力を上回るという転換点を迎えました。現在、日差しが強く、暑い気候であればあるほど、午後の電力不足を心配する必要はない。

夕方のピーク時には、電力予備力率は七%から一〇%で安定している。私たちは、エネルギー転換を一步一步実現するために、あらゆる困難を乗り越え、時間との戦いの中にいる。世界が「二〇五〇年ネット・ゼロ変換」の目標に追いつこうと急ぐ中、台湾の再生可能エネルギーの開発、エネルギー貯蔵ネットワークの構築、送電網の回復力の強化は、加速させるしかなく、減速させることも、後戻りさせることもできない。

台湾は七年間、揺るぎない国力を持ち、世界の台湾となった。

改革を推進するだけでなく、過去七年余り、兩岸情勢や国際情勢が大きく変化する中、我々は経済の発展、国力の増強、国民のケア、国家安全の確保、兩岸情勢の安定、国際的な支援の確保に全力を尽くしてきた。台湾のすべての人々が七年以上にわたって懸命に働いた結果、台湾経済は大きな回復力を見せただけでなく、グローバル・サプライチェーンの再編を推進する重要な力となり、中華民国の国力はより強固なものとなった！ GDP は私が就任した一七・五兆元から大きく成長し、今年は一三兆元を超える見込みです。ここ数年、世界が経済停滞とインフレに苦しむ中、台湾のここ数年の平均経済成長率は世界平均を上回り、比較的安定した物価を維持しながら、四小龍のトップを維持しています。

また、消費促進のための消費券の発行に加え、現金支給、T

PASS、家賃補助の拡大などを通じて国民の生活負担を軽減し、都市と農村の発展のバランスを強化し、中小企業の産業再編と高度化への投資を強化してきた。

また、「六大戦略産業」の振興に全力を挙げ、インフラ整備に多額の投資を行い、台湾の産業は「パラダイムシフト」を遂げた。特に、台湾の強力な技術力と製造能力は、グローバル・サプライ・チェーンの再編成において欠くことのできない重要なプレイヤーとなっている。

その結果、単一市場への過度な依存を改めた。対米輸出額は倍増し、今年六月には「米台二一世紀貿易構想」の下、米国との第一次協定の調印を完了した。これは、それぞれの国のコンセプトを開拓し、革新する全く新しい貿易協定である。七年以上にわたる努力の結果、新南方諸国への輸出貿易は過去最高を記録し、欧州との関係も強化され、今や欧州連合（EU）は台湾にとって最大の対外投資先となっている。経済力によって、台湾のかけがえのない重要性を世界に証明したのです。

二〇一六年以来、蔡英文政権は約束を守り、現状を維持してきた。われわれは「四つの主張」を堅持し、挑発と侵略を控え、圧力に屈することなく、世界の民主主義諸国との協力を深め、地域の平和と安定を守り、世界に親善を貢献してきた。台湾海峡の対岸に台風が大雨を降らせたとき、私たちは人道的配慮を示した。トルコを地震が襲ったとき、私たちは最前線に立ち、ロシアとウクライナの戦争が勃発したとき、私たちはウクライ

ナにしつかりと寄り添った。もちろん、三年にわたる伝染病の流行時に、民主主義のパートナーたちが互いに助け合った「善意の輪」も決して忘れることはないだろう。障害があっても、私たちは世界に出て行くことを止めない。台湾と日本の友好関係は揺るぎないものであり、台湾とアメリカの関係は揺るぎないものであり、私たちの友人や同じような理想を持つ国々は国際的な舞台で台湾を支持し、さまざまな国の若者たちが地域社会で「Viva Taiwan」とつながっている。

台湾の民主主義の成果は世界の基準となっており、台湾の揺るぎない地位は間違いなく民主主義の持続的発展と世界の安全と繁栄の最大の保証である。

自信と落ち着きを持ち、地域の平和と安定に貢献し続ける。

台湾は今や世界の台湾である。我々は、地政学、世界的な民主主義の発展、国際的なサプライチェーンシステムにおいて、最も信頼でき、効率的で、安全なパートナーであることを証明し、我々に対する国際的な支持はかつてないほど強くなっている。今この瞬間、我々はすでに自信と確固とした態度で世界と向き合うことができる。また、自信と確固とした態度で中国と向き合い、将来の発展のために台湾海峡を越えた平和共存の条件を作り出すことができる。総統としての私の責任は、国の主権と二三〇〇万人の台湾人の民主的で自由な生活を守ると同時

に、台湾海峡兩岸が平和的に共存し、人々の間で自由で無制限かつ負担のない行き来ができるようにすること、そして台湾、さらには台湾海峡兩岸が地域の平和と安定に貢献できるようにすることです。台湾海峡の双方にとって平和が唯一の選択肢であり、すべての当事者にとって最大の共通項である現状を維持することが平和を確保する鍵である」ことを改めて強調したい。特に、台湾海峡の平和と安定は国際社会の安全と繁栄にとって不可欠な要素であり、いかなる当事者も現状を一方的に変更することはできず、兩岸の相違は平和的手段によって解決されなければならぬことが世界的に認識されている。従って、我々は主権と民主的自由を確保し、歴史的事実を尊重して平和で安定した兩岸関係を構築し続けるために、持続的な努力をしなければならぬ。今日は、多くの党首や来賓の方々が集まっている。党の対立は民主政治の日常茶飯事だが、今日こうして全員が集まっているのは、台湾では珍しい民主的な風景だ。選挙戦が終わった後、私たちがお互いの感情を捨て、台湾の中でより大きなコンセンサスを求め、一丸となって対外的に団結できることを心から願っている。それが、政党に関係なく、私たちの国に対する共通の責任だと信じています。

我々は、台湾の世論の総意、相互尊厳の前提、民主的対話の手順、現状維持の核心に基づき、北京当局と相互に受け入れ可能な交流の基礎と平和的共存の方法を発展させることを望んでいる。私は、国際社会の台湾に対する支持はますます強まると

確信している。世界が台湾海峡の平和と安定に関心を寄せ、その維持に尽力している今、台湾海峡の兩岸が地域の平和と安定の重要な貢献者となれるよう、我々はチャンスをつかみ、リスクを管理しなければならない。これは、台湾と台湾海峡兩岸の政党が避けることのできない歴史的責任であり、共通の使命である。

この国は前進を続け、

台湾のおかげで世界をより良い場所にする。

名誉ある同胞の皆さん、六五年前の八月二三日の戦いであろうと、今日の外的脅威の課題であろうと、私たちは常に、違いがあろうとなかろうと、ひとつの島、ひとつの命であるという信念を持ち続けてきました。今日、中華民国である台湾は、一、三〇〇万人の人々の総意となっている。このコンセンサスは、異なる民族の歴史的感情を結集し、過去七四年間に共有された祝福と不幸を認識するものである。それはまた、団結のため、祖国を守るため、民主主義と自由の生活を守るために、最大の共通項を生み出すために、互いに歩み寄ることを厭わないということでもある。台湾の民主主義は、内外の多大な圧力のもとで成長し、繁栄してきた。台湾の民主主義を守ることは、普遍の価値の民主主義を守ることである。皆さんの団結のおかげで、私たちは民主的な台湾を世界に照らしています。私たちは自信

を持って、台湾人は品位があり、自律的で、情熱的で、親切であることを世界に伝えます。台湾人は世界の人々であることを喜びとし、何世代にもわたって民主的で自由な人々であり続けます。

蔡英文総統に中華民国総統としての二度のチャンスを与え、台湾の人々とともに仕事をする機会を与えてくれた台湾の人々に感謝し、私の心は限りない感謝で満たされている。

過去数年間、行政の面ではいくつかの成果があったが、不満な部分もある。大統領として、私は責任を果たす義務がある。民主主義国家では、権力者に自己満足は許されず、行政のあらゆる面でより多くの国民が満足できるように、たゆまぬ努力を続けることが政府の目標である。同胞の皆さん、蔡英文総統の任期は来年の五月二〇日までですが、国は前に進まなければなりません。自信に満ち、安定した台湾が前進し続けることを私は信じている。より良い台湾を世界に提供するだけでなく、民主的な台湾によって世界をより良い場所にする必要があるのです。

頑張れ台湾！
頑張れ中華民國！
ありがとう！



日本台湾親善協会二〇二三年台湾訪問団報告

日本台湾親善協会

副会長 並 木 正 芳

日本台湾親善協会二〇二三年台湾訪問団は、十月十日の『中華民國台湾一一二周年國慶節』に合わせて、十月九日から十一日までの三日間にわたり、衛藤征士郎会長はじめ団員二十二名により実施され、日本と台湾の友好親善と関係の強化発展を一層深めて参りました。

訪問団は、九日早朝六時に、羽田空港中華航空カウンター前に集合、七時五十五分発のCI・223便にて台北に向けて出発、ほぼ予定通り十二時三十五分（以下現地時間＝時差一時間）に松山国際機場へと到着、現地から参加の団員も合流しました。

空港より早速、陽明山と円山風景地区を背景に建てられた宮殿式建物として中国伝統芸術の美を表現して名高い『円山グランドホテル』へと向かい、台湾の対日本窓口機関であり台北駐日経済文化代表処台北本部でもある『台湾日本関係協会』の蘇嘉全会長主催の歓迎の宴に臨みました。

蘇会長は、前立法院長（国会議長）・元官房長官・元内務大臣などの要職を



務められ、大の親日家でもあられます。

祝宴は、私たち協会への厚い歓迎の意を表するように、台湾で初の五つ星ホテルの円山グランドホテルの中でも総統が各国元首や政府要人をもてなす特別な部屋である金龍餐厅で行われ、御料理には「国宴文化餐宴」と名付けられた、蔣中正元総統によるベトナム大統領夫妻歓迎宴・外務省春の宴・馬英九総統と蕭萬長副総統就任宴・李登輝総統と李元簇副総統就任宴・陳水扁総統と呂秀蓮副総統就任宴・李登輝総統と連戦副総統就任宴などに供されたメニューで、中華料理と西洋料理をアレンジしており、デザートには一年中果物が豊富で、果物王国と言われる台湾に相応しく季節の果物が添えられた豪華料理で持て成してくださりました。

話も弾み宴もたけなわでしたが、午後の予定である『忠烈祠』での献花行事のため蘇会長や関係協会皆様とおいとま致しました。

『国民革命忠烈祠』は、辛亥革命を始めたとする中華民国建国および革命、中国大陸での日中戦争などにおいて戦没した中国革命家や中国兵士の英霊を祀る祠であり、衛藤征士郎会長を中心に副会長助祭により、団員一同世界平和を祈念しつつ英霊に三度の最敬礼をもって献花致しました。



その後は大殿の左右にある文烈士祠と武烈士祠を参拝した後、陸・海・空の三軍より選抜された兵士が、一時間交代で大門と大殿を各二人ずつで守る衛兵と儀仗兵の任務交代のセレモニーを見聞して夕刻よりの答礼会のため宿泊所であるホテルロイヤル台北に向かいチェックインしました。

午後六時から、ホテルロイヤル台北明宮庁の梅花において、日本台湾親善協会主催による答礼懇親会を開催しました。

懇親の宴には、お二人が駐日台北経済文化代表処の副代表として在任中に当協会がたいへん御世話になった川柳名人でありユーモアあふれる弁舌家である郭仲熙氏や現在は外交部（外務省）の亜東太平洋司公使回部弁事として活躍されている張仁久氏にお出でいただき、外交部の皆様との旧交を温めつつ宴はたいそう盛り上がりました。

また終宴後は、富田家彰団員の御案内で士林の夜市を有志で見物し楽しく過ごさせていただきました。

翌十月十日は、いよいよメインイベントの『双十国慶節』です。ホテルにて朝食を済ませ、早朝七時にロビー前に集合、専用バスと徒歩で国慶節式典祝賀会場の總統府前広場まで移動して、メインスタンド前の最前列に着席しました。

式典は、国旗と国父孫文への三顧の礼で始まり、整列した三軍儀仗隊を前に主催者である游錫堃立法院長が開会の挨拶をされ、続いて蔡英文總統が任期中最後の談話を発表されました。

蔡英文總統は、就任以来約束を守り現状維持に努めて「四つ

の堅持」①自由で民主的な憲政体制を堅持②中華民国と中華人民共和国が互いに隷属していないことを堅持③主権の侵犯と併呑は許さないことを堅持④中華民国台湾の前途はすべての国民の意思に従うことを堅持」も遵守し、挑発せず、突進せず、プレッシャーに直面しても屈服せずに、全世界の民主主義国との協力関係を深化させ、貢献してきたと振り返り、自信を持って中国兩岸の平和共存と自由な往来を求め、現状維持を中心として平和共存の道を探っていくと力強く述べられました。（談話については、別掲）。

三軍儀仗隊の見事に訓練された一糸乱れぬ行進による退場の後、パレードに移り、東京農大第二高校吹奏楽部のパフォーマンス・これまでで最多の四十二名の訪問団で参加した日華議員懇談会（古屋圭司会長）と台日交流聯誼會との当協会衛藤征士郎会長も参加してのパレード・カリフォルニア大学ロスアンゼルス校マーチングバンドのパフォーマンスなどで雨模様との天気予報の心配もよそに祝賀式典は無事に終了しました。



昼食は、当協会員でもある平岩建設社長の平岩敏和氏が経営する中山区雙城街の蟹懷石料理「月夜岩」で特別のサービス料金で極上の活タラバ蟹コースを堪能させていただきました。

その後、夕刻までの少しの時間を利用してフランスに本社がある大型スーパーマーケット「カルフル」に立ち寄り台湾名産品のお土産などを購入しました。

夕刻からの呉釗燮外交部長（外務大臣）主催のレセプションには団員を代表して浅見哲理事ご夫妻が参加、夕食を兼ねた団員懇親会は、台湾の小籠包を世界に知らしめたパイオニアと言われる点心の老舗「鼎泰豊」で行い、団員一同、懇親を深めました。が、過密スケジュールにも関わらずその後、夜のひと時を夜市へと出かける方たちもおられました。

翌十一日は、もう帰国です。ホテルで朝食を済ませ、チェックアウトまでの時間をそれぞれに過ごし、午前十一時三〇分にホテルロビーに集合、専用バスで出発しました。

途中、台北で人気のデニッシュメロンパンなどで知られるベーカーリー「一之軒」などに立ち寄りながら、団員の李昌憲氏がご存じの広東・海鮮料理レストラン「吉品海鮮」で昼食をいただき、日頃は珍しい香港式グルメなどの料理に質問が相次いでいました。

今回の訪問の最終は、中華民国臨時政府初代大統領として国父と呼ばれる孫文先生の思想と革命業績を顕彰するために建設された「国立国父記念館」を見学しました。

孫文は、革命に際してしばしば日本に亡命し、日本の思想家、政治家、実業家などとも交流し、多大な資金援助も受けていますが、この時に名乗っていた中山樵（なかやまきこり）から通

称を孫中山と呼び、中国では孫中山として知られ、生まれ故郷の香山県が中山市と改称されたり、中山公園、中山路、中山大學、南極の中山基地など台湾や中国にある「中山」がつく地名や地名は、孫文の号中山から命名されています。

孫文は一九二五年三月、ガンに侵されて北京で客死し、南京に葬られました。その前年の十一月には日本の神戸において「大アジア主義講演」を行い、日本対して「西洋覇道の走狗となるのか、東洋王道の守護者となるのか」と問い、欧米の帝国主義に対し東洋の王道・平和の思想を説きました。

今日の世界情勢を見ると孫文先生の遺言警句のようであり、また、蔡總統の国慶節談話にある平和共存の道を弛まず探っていくとの決意に鑑みて、深く考えさせられます。

中一日の短い台湾訪問でありましたが、国慶節を祝し台湾との関係を深化充実する所期の目的は十分に果たし、松山国際機場午後六時五分発の中華航空CI・222便にて空路帰国の途につきました。航空機は順調に飛行し、日本時間午後十時五分に羽田空港に到着し、入国手続きなどの後、時間も深夜となるので空港にて解散いたしました。

団員皆様にはたいへんご苦労様でした。また、何かとお世話になりました。有難うございました。



日本台湾親善協会

「令和5年度台湾訪問の旅」に参加して

日本台湾親善協会

理事 浅見 哲

参加者総勢二二名の台湾訪問団への参加

予定は一〇月九日から一日の予定で、はじめてのあこがれの台湾に行けた。

せっかく初めての台湾であること、国慶節の日を中心の日程であることを鑑みて、家族二人を伴って参加させてもらった。

一緒に行ったのは、家内と長女。長女が延泊の工程の計画係で、台湾出身の友人がいるらしく、延泊の日の食事から観光のための日程表づくりまでを担当させた。それは最後に書くこととして、松山空港に一〇月一九日の現地時間一時に到着。空港の中で両替を少しして、全員集合。まずは公式日程の場所にバスにて向かう。盛大な料理ホテルと思しき、圓山ホテルでの台湾日本関係協会蘇嘉全会長主催の催宴席に到着。

一階から階段を上り三階であっただろうか、歩くところすべて食事をしている人ばかりで、何百人の食事を賄っているのか、私の経験をもってしては信じられない規模の料理店である。

奥まった部屋の前に、背の高い高貴な雰囲気蘇嘉全会長が一人一人を迎えられて最初から緊張の昼食と相成った。

蘇嘉全会長の歓待のご挨拶と、わが衛藤征士郎会長の挨拶が

行われ、我々が座している部屋の歴史を紹介され、蒋介石翁もよく会議

を持たれた部屋だと知り、食事も蒋介石翁の好まれたメニューを加えら

れたもので、国賓待遇の品書きを各自用に準備されていてこれも感激。

更に中華宮廷料理に合わせた飲み物（お酒が）フランスの赤ワイン

（ブルゴーニュコート・ドール・ピノ

ノワール2020ドメーヌ・アミオセルヴェル）でこれまた驚き！

最初の中華料理のお供が中国酒ではなく、ブルゴーニュの赤ワイン。しかもワイン好きの私には驚きのシャンボール・ミュージニエの本拠地の逸品高級ワイン。台湾で最初の会食への招待を受けて高級フランスワインとは驚きのスタートだった。

昼食後、忠烈祠へ向かう。戦後生まれの私なんかにしてみると、国のために命を落とした人たちの鎮魂を大事にしている建物と施設に、警備の軍人が常駐していることの現実を見ると、日本に育ったありがたみか、特殊なのか、考えさせられてしまう。夕食はお返しの日台湾親善協会主催の懇親会にて、一日に昼と夜に通常の食事の一日分の量を二度会食にて食する。

一〇日の国慶節の日。建国一二年双十国慶節の祝賀の行われる中心へ向かって、警戒の厳重な中を台北市の中心部に向けてバスは進む。いたるところにバリケードがあり、警察か軍か



わからないが嚴重な警備状況を見下ろしながら中心部につくと、バスを降りて徒歩で会場の總統府前の広場中心まで歩く。

会場中心のご真ん中から右へ二〇メートルほど寄ったところの二列目に席を用意してあつて開会を待つ。おおよそ三時間だったか、游錫堃立法院長の挨拶や蔡英文中華民國總統の挨拶（自身に満ちた台湾、国家を前進させて世界をより良くしよう）と題する談話ののちに軍隊の音楽隊のパレードや学生たちの音楽器の演奏、日本の東京農業大学第二高校吹奏楽部が国慶節に招待され、演奏を披露。史上最多人数となる日華議員懇談会四名のパレードにはわれらが会長の衛藤征士郎団長が先頭真ん中にて行進。天気は雨模様の子報が、言い訳程度の水のしずくが手やほほに感じたかなと思ふ程度で終わり、なんと日差しが照らして「暑い」時間となつて、お祝いには最高の天候であつた。昼食の予定に間に合うように退席し、日本人経営の蟹懷石の店に向かう。北海道からの生直送の生きたカニを堪能した。その後腹ごなしの散策を変更し蒋介石翁を記念して建てられた中正紀念堂へ。ここでまた警備の兵隊の交代の儀式の一部始終見学、衛藤団長が献花し全員それに従う。夕食が大変だった。

つれの奈緒子は団員の皆様と飲茶の有名店へ、私と家内は初めての参加のこともあり特別待遇と言うことで、二名分の招待状を携えて中華民國台北賓館へ向かうが、台湾は初めてだから当然にこの中華民國台北賓館も總督府も初めてで、中国語は二ハオとシエシエのみ。家内とどうしたものか思案していると、

なんとなく親しくなつた富田家彰さんがホテルから会場前までタクシーで同乗してくださるとのこと、二人で胸を撫で下ろす。会場は、ジエームスボンドの映画に出てくるような赤絨毯が敷いてあるパーティー会場。気後れしないように胸を張つて案内状を差し出し、無事通過。

我々は早くついた方で、まだ準備中の箇所も散見される。

外の庭で弦楽四重奏が奏でられ、屋内のバーカウンターの部屋ではジャズの演奏。ここでカクテルを受け取つてもう一度庭の眺められるエントランスに出る。

座る場所がないので、一時間半ほどで退場。

タクシーの来そうな場所であらうしていると、若い警察官が質問をしてくる。家内がこのホテルにタクシーで帰りたい旨の意思を伝えようとしていると、台湾のお巡りさんは優しい。なんとタクシーを止めてくれて我々を乗せてくれた。

タクシーは警察官に訳も知らずに止められて、さぞ驚いた事だったろう。更に台湾が好きになつた一瞬だった。

翌日はもうこの旅行の予定では帰国の日。二泊三日は早い。せつかくの初めての台湾なので、故宮博物館へ家族三人で向かう。

二時間ほどの駆け足の見学。有名な石の彫刻の白菜とそのそばの石への彫刻の豚肉の角煮を最初に拝見。白菜は実物の何十分の一サイズだが、肉片はちょうど食べ頃サイズ。面白い文化を垣間見る。その後は娘のおすすめの陶磁器や彫刻を中心に、

そして私の好きな武器の歴史を辿ってみる。

団員最後の一緒に昼食の場所へ急ぐが、店のなかなかたどり着けず、タクシーを降りた後いつぱい歩く。家族の批判の目は私に集中。

昼食会場で改めて、この度の団員を眺めて、なんだか初めてほっとしてそれぞれを認識する。旅は終わり頃になって懐かしくなるもの。今回も同じだ。

この夜に富田さんの案内で「市場？」（夜市・夜店？）に行く。

私が海外旅行に行った時にはこのような行動が得意。面白そうな物を見つけては買い込んで、帰国して見せびらかして驚かれ、一緒に旅行者にも不思議がられることが多い。

トルコでのトルコ駒を十個買ってバスに戻った時は奪い合いになって、儲けが出たし、スペインでは、買い忘れた気球の模型を案内してもらったバスの窓に飾ってあったものを頼んで譲ってもらった。カンボジアでは警備の警察官から警察官バッチを売ってもらうという快挙というかふざけた話というか。一部紹介。

台湾では家内と娘が一緒だったので、全にダメ出しされて武勇伝は作れず。

私たちは、ここから延泊で別行動。他にも二―三名の延泊の方がいらつしやるようで、家内と娘はそれぞれ親しい方を見つけてだした模様。朝起きだして二階で朝食にブッフエで食べるも

のをトレーに乗せてテーブルに着こうとした瞬間、腰がズレた！

この二ヶ月の間は武道の特訓とほかに箇所の旅行に結局無理をしていたようで、体力があると過信しすぎていた。この最後の台湾の居残り観光旅行が、腰痛にやっと歩いての嬉しい苦しみ初旅の終わり方となった。

昼食は田舎町の牛肉ラーメンを屋台のようなオープンのお店で食する。美味い。

その後は、腰を庇いながら 有名な十分瀑布の周りをそろりそろりと歩く。

そして噂に聞く「九份」へ。温泉地かと思ったら、宮崎駿のアニメ映画『千と千尋の神隠し』のモデルになったという噂もあり、日本の観光客への知名度が高まった人気の場所ということで、平日だが観光客の多さは京都の有名寺院並み。腰を庇って人を避けて歩くのがやっと。階段の街並みで、登りはいいが下りはお爺さんが歩いているみたい。杖がないのがいいのか悪いのか？

体のことを別にすれば、延泊の一日は台湾の北部を満喫したことになった。

残るは。今回は国慶節で無理だと言われた、総督府の昔のままの児玉源太郎の像の置いてある部屋に入つて、その像に出会うこと。源太郎の



住んだ時代を体験したくてずっとこの思いは長く私の中に存在している。

ぜひまた、中華民国台湾へまた行きたい。

今回のようなロシアとウクライナの戦火の残っている時期に台湾にそれも国慶節の時に来訪するという機会に恵まれ、台湾のそよ風と人の温かみに触れ、このままそと台湾の無事とアジアの平和を祈らずにはいけない思いを深く持ちながら帰途についた。初めて一緒した台湾旅行で団員の方々、富田さんには特に、そして李さんにお世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。

事務局だより

※新入会員のご紹介

令和五年四月一六日〜令和五年二月一五日

個人会員

上原 輝彦

鎌倉 幸子

三浦 雄二

伊藤 隆之

山口 裕章



原稿募集

皆様の投稿をお待ちしております。台湾に関するものばかりでなく、身の回りのことなど、ご自由にお寄せ下さい。
紙媒体でも E メール でも事務所宛てにお送りいただければ幸いです。

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 令和五年 秋季号 (No.87)
発行日 : 令和5年11月15日
発行所 : 一般社団法人日本台湾親善協会
発行人 : 衛藤征士郎
所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館2階
Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770
H P : atousinzen@nifty.com
印刷 : 株式会社サンユー



台湾の翼 チャイナエアラインなら、 うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案
充実の法人プログラム
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



Home page



Face book



Twitter



Instagram